巻頭言
foreword

生涯教育システムの変更と会員カード

井戸 靖司
公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

日本診療放射線技師会にとって生涯教育は大きな柱である．本会が国民医療に貢献していくためには，個々の会員が日進月歩の医学・医療に対し常に向き合い，学習し続けることを支援することと考えている．

10年ほど前にできた生涯教育システムについて，多くの議論があったことは多数の会員が認めるところであり，その一つが技師格である．アドバンス・シニア・マスターの技師格をつくり，座長や講演者がシニア格以上でないと，イベントとして認めないという強硬な方針で，反発を招いた事態もあった．座長や講演は，その領域に精通した者が行うのが最適と考えるが，当時のシニア格はその道のプロというより，放射線管理士，放射線機器管理士，臨床実習指導者の認定を受けた者に付与され，地域差が大きく出た．地域ごとにそれぞれの講習会が開催されたかどうかにより，学術大会の座長推薦に苦慮することになった．

また会員に格付けをすることにも反発が見られた．技師会という職能団体では会員は平等であり，会員一人一人の置かれた立場に違いはあるものの，地域医療に従事して国民の健康増進に貢献している．それを格付けするのは，あまりにも会員の現状無視との批判があった．シニア格が診療放射線技師能力を本当に反映しているのかという疑問も付いて回った．生涯教育を推進するために技師格カードも色分けされて発行され，技師格のない会員には本人申請でベーシックカードが発行され，現在まで継続されてきた．ベーシックカードに会員カードとしての役割を託したが，発行が会員の半数にも満たないという現状では，会員カードの体を成していない．確かに，カードを利用したイベントへの参加登録，参加実績など，会員情報システムとの連携には大きな成果を上げた．しかし，カードがあることを前提に作られた会員情報システムは，残念なことに技師格カードが発行されていない会員には，学術大会などへの参加をより煩雑にしてしまった．

この反省から本年1月，技師格カードとは別に会員カードを会員全員に無償配布した．会員が各種イベントに参加した時，会員情報システムと連動して管理できる体制となった．今後，学術大会などには必ず持参していただきたい．

生涯学習システムは，前記の問題を解消するため方向転換した．まず第一に，技師格という名称がなくなり，到達目標に対する称号としたことである．会員が学習した評価をアドバンス・シニア・マスターと設定し，目標をクリアした会員に称号を与えていく．一度付与した称号が取り消されることはない．公益法人の責務として，会員はもとより非会員の診療放射線技師も対象とした生涯教育にも力を注ぐ必要がある．このような立場である日本診療放射線技師会の称号である．称号による会員差別はあってはならないのは当然である．アドバンス称号は基礎4科目と，各地で開催されている分野別基礎講習4科目程度で付与される．入会して5年ほどで，皆さんにアドバンス称号を取得していただきたい．詳細は各県の教育委員もしくは日本診療放射線技師会ホームページで確認してほしい．